

# こどもの病気対策法①45

—新型コロナウイルス感染症対策とインフルエンザ予防接種—

小宅医院 小宅民子

今年の冬は、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザ同時流行が懸念されます。新型コロナウイルス感染症もインフルエンザ感染症も初期症状は、発熱、咳、倦怠感など似ており、症状だけでは区別が出来ません。また新型コロナウイルスとインフルエンザウイルスに同時に感染することも考えられます。このため、今年の冬は、新型コロナウイルスやインフルエンザウイルスにかからないよう予防が重要になります。手洗い、消毒、マスクの着用などの基本的な対策はもちろんのこと、今年はインフルエンザワクチンの接種が強く推奨されます。

インフルエンザ予防接種は、10月より開始され、生後6か月より接種できます。生後6か月以上12歳（13歳未満）までは2回、13歳以上は1回接種します。1回目から2〜4週あけて2回目を接種します。津久見市では、生後6か月より中学生まで、1回につき千円の助成があります。ワクチン接種により2週間位で抗体（免疫）ができ、約5〜6か月は効果が持続するといわれています。ワクチンは10月に入ったら接種を開始し、遅くとも12月中旬までに完了しましょう。

インフルエンザにかかると、高熱や咳などの症状だけでなく、肺炎や脳症などの合併症をおこすことがあります。脳症になると約3割の子どもが死亡し、生存できても後遺症が残ることがあります。新型コロナウイルス感染症を恐れて子どもを医療機関に連れて行くのをためらう保護者の方もいるかとおもいます。しかし、医療機関では感染対策を行い、発熱している患者さんは、他の患者さんと接触しないような工夫がされています。予防接種の対象となる病気は、特效薬が無く、致死率が高く、重い後遺症が残る危険が高い病気がほとんどです。さらに、今年の冬は新型コロナウイルス感染症とインフルエンザ感染症の同時流行が懸念されます。しかし、インフルエンザ感染症は予防が出来ます。10月に入ったらインフルエンザの予防接種をはじめましょう。

## 新型コロナウイルス感染症とインフルエンザ予防接種5つのポイント

- 今年の冬は、新型コロナ、インフルエンザ感染症の同時流行が考えられる
- 今年の冬に向け、インフルエンザ予防接種が強く推奨される
- インフルエンザ予防接種は10月より接種可能
- 生後6か月から12歳までの2回、13歳以上は1回接種
- 津久見市では1回につき千円の助成あり

